



平和のために  
京極小学校6年  
田村 暢 熙

69年前の8月6日、広島に原子力爆弾が落とされ、一瞬にして広島を死の世界にしました。

広島が原爆投下選ばれた理由は、この時まだ空襲を受けていなく、町の大きさや山に囲まれた地形が原爆の効果を正確に測定できること、軍事施設や工場が集中していたことなど、そしてこの日の広島は雲一つない晴れ。運命は決まったのです。

今の広島は、昔原爆が落とされたように見えません。ですが、落ちた時は大量の熱線、爆風、放射能があったのです。人々は、爆風により目が飛び出たりひどいやけどで服をはがすたび皮ふまではがれ落ちました。つぶれた家の中からは、「助けて助けて」という声が聞こえ、水が飲みたくても水を飲むと死ぬと言われ飲ませてもらえませんでした。原爆が落ちた時にできたきのこ雲は、雨雲に変わりどしゃぶりの黒い雨が降りました。その雨は、ただの雨ではなく放射能の雨だったのです。毎日毎日たくさんの方が亡くなりそして、生き残ったのですが、何十年後かに、原爆症で亡くなる人もいました。二、三年後には自殺する人もいたそうです。語りべさんもやけどで

顔が、サルのおしりのように真っ赤になり周りからは、赤鬼と言われ自殺を考えたそうです。

なぜ語りべさんがこの話しをするのかというと自分と同じ体験をしてほしくないという願いと、アメリカ人は、にくかったけど、やさしいアメリカ人がいたこともあり、全てのアメリカ人をにくめなく、核を作ったアメリカ人や核保有国の人々に核のおそろしさを知ってほしいと思っているからだそうです。

『にくしみがあると平和はない』  
『核も戦争も人間が作ったもの。それを防ぐには、みんなの協力が必要なのです。』

今はまだ被爆者がいて原爆の恐ろしさを世界に伝えようとしています。ですがその人たちもいずれ亡くなります。そうすればこの世界は、どうなるでしょうか？同じ悲劇がくり返されないためにも僕たち一人ひとりが、広島を見て聞いて感じたことを、そして忘れてはいけない8月6日の出来事を周りにいる人へと、そして世界へと伝えていけたら、それが平和への一歩につながるのだと思います。僕たちが住んでいる日本は、世界で唯一の被爆国です。だからこそ『原爆の恐ろしさと平和』という大切なことを伝えることが僕たちの使命だと思います。



広島で学んだこと  
京極中学校3年  
坂本 明日香

私は8月5日から7日で行われた広島視察研修に参加しました。そしてそこで多くのことを学びました。なかでも6日のことはとても印象に残りました。

6日は平和記念式典に参加し、広島平和記念資料館や平和会館などに行きました。

平和記念式典の中に「平和への誓い 子ども代表」というのがありました。

そこでは広島の小学六年生が戦争や平和についてスピーチをしていました。私はそのスピーチを聞き、鳥肌がたちました。その子どもの言葉がとても重く感じられたからです。

「平和について、これからについて共に語り合い、話し合いましよう。」という言葉がスピーチの最後にありました。私たちやその子どもたちがこれからの世界をつくっていきます。改めて、私たちが平和をつくっていかねければと思いました。

その後広島城に行き、昼食を食べたあと、広島平和記念資料館に行きました。広島平和記念資料館で見た時間は一時間ありませんでしたが、その資料や展示品を見たり触ったりできてとても良い経験にな



広島で学んだこと  
京極中学校3年  
小上 優 輝

今回の広島視察で多くのことを学ぶことが出来ました。戦争の恐ろしさ、平和の大切さ、そして命の尊さを学びました。

今から69年前、日本でリトルボーイという核爆弾が落とされました。たったひとつで、一瞬にして多くの人々の命が奪われました。この事実を知り、私は、戦争は決してやって

広島で学んだことをまず周りの友達から話していきます。みなさんも広島のことをもっと知ってください。そして平和について考えてください。

りました。

実際に遺品を見てみると何と言ったらいのか、言葉が出てきませんでした。他にいた来館者のほとんどの人たちもみんな声を失くして、資料館の中はとても静かでした。自分の戦争や原爆に対する考えがとても甘かったことを思い知らされました。そして二度と起こしてはいけないことだと改めて思いました。

この日の最後に平和会館に行きました。平和会館では語り部さんの池田精子さんが待っていてくれました。この方をはじめに見たとき私は被爆したことをあまり感じさせない方だなと思いました。ところが、話を聞くと池田さんはつらい経験を乗り越えて、生きていることがわかりました。

池田さんは被爆したときと被爆後、体と心に深くて大きな傷を負いました。きつと戦争の経験を思い出すのはつらく、それを人に伝えるのももっとつらいことだと思っています。でも池田さんは今、戦争や核兵器の廃絶に向けて行動しています。池田さんは最後に「皆さんに原爆についてしてもらいたいことがあります。一つ目は知ること、そして考える、そして行動してください。平和へのやり方を間違えればとても危ない。」と言っていました。私は本当にそう

はいけないことだと改めて実感しました。

また、語り部さんの話も聞きました。語り部さんは

「あなた達に私たちのような体験をさせたくない。」と、この言葉を何度も何度も繰り返していました。語り部さんは女学生の時に被害に遭われたそうです。顔には重度の火傷を負い、爆風で服が破れた体の皮膚とくっついたそうです。そして何より語り部さんにとって一番苦しかったのは、友達の死だそうです。ほとんどの友達は亡くなり、自分だけが生き残って良いのかと毎日思っていたそうです。語り部さんは死のうと思ったときがあったそうですが、亡くなった方の為、そしてこの先の人たちに当時のことや、戦争の恐ろしさを伝える為に生きてきたそうです。私たちも語り部さんの話を聞き、もっと多くの人に伝えていかなければと思います。

そして平和記念館には原爆が投下された8時15分で止まった時計や、被害に遭われた方々の服などが展示されていました。また、原爆が投下された場所や当時の広島市について多くのことを学びました。そして、平和記念館の近くにある原爆ドームは昔、原爆が投下される前は広島県物産陳列館という名前だったそうで

るかもしれないと思い、怖くなりました。

戦争のことを決して人ごととは思わずに、身近なことから始めようと思いました。



広島で学んだこと  
京極中学校3年  
松本 郁 美

私は広島に行つて現実を味わいました。最初広島に着いた時は、ここに原爆が落とされたなんて信じられないと思いました。現在の広島はとも町が栄えていて人がたくさんいました。そこに原爆を落とされたなんて考えられませんでした。

私は今回の研修で広島のことをたくさん学びました。式典ではたくさんのお花が並べられていました。千羽鶴を掛けに行つたとき、ものすごい数の千羽鶴がありました。私はその時まではまだどれだけ戦争が恐ろしいかがわかっていませんでした。私がわかったのは、原爆ドームを見てからです。私は原爆ドームを見た時、これが現実なのかと思いました。それから私は原爆ドームの光景が頭から離れません。

そして、さらに現実を知ったのは、広島平和記念資料館に行った時です。そこでの悲惨で残酷な光景は絶対に忘れてはならないと思い、しっかりと

